

令和3年度 正智深谷高等学校自己評価シート

目指す学校像	建学の精神「選択」「専修」を踏まえ、
	1 自己肯定感を育み、他者を認めることができる人間を育てる。
	2 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。
	3 夢（ビジョン）を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

第三者評価委員会	
(学校評議員 3名)	開催予定日
	書面による意見聴取済

重点目標	1 入学者の定数確保と埼玉工業大学への内部進学者の増加
	2 教育指導力の充実と向上
	3 浄土宗門関係学校としての教育推進
	4 危機管理体制の充実と再構築

学校関係者評価委員会	
学校評議員 3名	開催日
学校関係者評価委員 9名	2月26日
自己評価委員(教職員) 13名	

領域	学校自己評価							第三者及び学校関係者評価
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	委員からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数安定のため、他校との違いを鮮明にし、特色ある教育を進めていくことが必要である。そのためにも、引き続きICT教育・グローバル教育・SDGs教育を実践し、その取り組みを周知する。 ・同一法人校として埼玉工業大学への内部進学者の増加を意識した高大連携を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進める教育改革が地域社会（保護者や中学校）からどのような理解と評価を得ているか？ ・募集体制のさらなる充実を進めて入学者を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①近隣の公立高校及び競合する私立高校とは異なる、特徴ある教育実践とその成果を積極的に発表していく。 ②中学生や保護者に向けて、ライン・インスタグラムなどを利用した、多角的な情報発信につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校教育改革の柱となる新教育課程を編成できたか。 ・SHIPIに基づく新たな取組の実践の外部発信が十分できたか。 ・HP・ライン・インスタ等の有効活用ができていくか。 ・募集定員（360名）以上の入学者を確保できたか。 ・説明会、見学会において適切なPRができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新要領に則った教育課程を編成して学事課に提出、承認を得るとともに順調に教科書採択も進んだ。 ・コロナ感染拡大のためオープンスクール等は中止せざるを得なかったが、学校見学会や新HP導入等によるPRは成果をあげた。 ・2/17時点で手続き者333名を確保している。併願手続き延納者が866名おり、400名超の入学者も考えられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程にのっとった授業を進めるにあたり、ICT教育等の従来からの意義ある取り組みを生かしていくことが大切である。 ・HP、説明会などのさらなる経実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立高校とは違う「私立の良さ」をもっとアピールする必要がある。 ・LGBTの視点も加えた新制服の検討・採用を進める時期である。 ・「埼玉工業大学深谷高等学校」から「正智深谷高等学校」への校名変更によって「付属高校」というイメージが弱まっており、高大連携の強化が必要である。 ・運動部からの埼玉工大・内部進学を増やす取り組みが必要ではないか。 ・内部進学者10名という数字はあまりに少ない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育改革方針に基づいたICT教育への取り組みを全学年にわたり、さらに充実させる。 ・大学入学共通テスト2年目にあたり、生徒の希望進路実現のため、意欲的な学習に取り組めるよう系統的な学習指導をさらに進めていく。 また、課題のある生徒には適切に支援を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校教育改革・新学習指導要領を踏まえた新しい教育への取り組みの充実。 ・学習習慣の定着、大学一般入試に対応できる進路指導体制の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教務、教科の連携により指導法の工夫、指導力の向上を図る。 ②成績不振者への支援を充実させる。 ③校内研修の充実を図る。 ④グローバル教育を進める。 ⑤教育環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題を適切に課すなど、生徒の自主的な学習姿勢・継続的な家庭学習習慣を生む指導がなされたか。 ・「分かりやすい授業」「基礎学力の定着」を図るための研修を進め、その成果を生徒に還元していくための試みが実施されたか。 ・職員会議における教科報告発表を行った。 ・補習や駿台サテネットの実施により、受験対策は整っているか。 ・iPadなどICTの活用に関する教員のスキルアップが図れているか。 ・iPadの導入、GCATの実施により、教員がスキルアップし効果的な授業ができたか。また、授業診断による分析結果を生かしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染が拡大する中、生徒を一室に集める補習スタイルが好ましくないとされ、指導・対応に苦慮したことはない。 ・職員会議における教科報告発表を行った。 ・GCATはきめ細かく計画されており、事前学習も順調に進んできたが、止まることのない新型コロナウイルス感染拡大により、今年度も研修(修学)旅行は中止せざるを得なかった。 ・今年度も6教科の授業診断を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業診断の結果を共有するなど、教科ごとの授業改善に取り組み、教科としての授業力向上に努めるとともに継続的な教科報告会の実施などにより学校全体が成果を共有できる体制の構築に努める。 ・クラッシー等のICTアプリのさらなる有効活用を努める。 ・修学旅行および土曜講座のあり方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜講座の意義や位置づけが十分に理解されておらず、生徒の意欲を引き出せていない。 ・生徒の興味・関心に結び付け、さらなる工夫も必要だろうが、そもそも土曜日に登校させること自体、検討の余地があるのではないか。 ・iPadの適切な使用方法について指導を徹底する必要がある。 ・エアドロップ機能を使い不適切な画像を送りつけられる被害が出ており、対策が必要である。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神である仏教に関する学びや深谷出身の偉人である渋沢栄一思想と行動にふれることを通じ、日本の伝統文化や寛容の精神、忠恕の心などを大切にできる生徒の育成に努める。 ・生徒の自己肯定感を育み、個人として自ら考え、自ら行動できる「力」の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶華道授業により情操涵養を図る。 ・宗教の役割、意義について学ぶ。 ・人格形成に寄与する授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①建学の精神や校訓「選択・専修」に基づく人間形成が図られているか。 ②生徒の適性に合った人間形成が指導されているか。 ③日本人の習慣や伝統について、基本的な知識が身についたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の具現化に向けた取り組みができたか。 ・行事や授業を通じて日本文化における宗教の意義や「尊ぶべきもの・守るべきもの」について学ぶことができたか。 ・人間として尊厳を持って生きることの大切さを学ぶことができたか。 ・保護者、地域との宗門校としての特色を生かした連携が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から体育館に全校生徒を集める形式での宗教行事は実施せず、教室における写経が中心となった。 ・宗教教育が生徒指導のみならず、広く生徒の人間形成に意義ある役割を果たした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「建学の精神」具現化にむけ、宗教科のみならず学年・分掌など学校全体として取り組む。 ・地域社会に貢献できる取組を工夫していく。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の指導は適切に行われている。 事件・事故を未然に防ぐため分掌間の連携や外部機関との連携をさらに強化する。 ・自然災害等のさまざまなリスクに適切な対応ができるように、組織・体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の推進と安全確保のための支援体制は充実しているか。 ・特性を生かした地域連携の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の状況を把握し、教職員間の情報共有・連携より協力体制を整える。 ②防災訓練を円滑に実施する。 ③不審者への対応、予期せぬ災害への対応を整える。 ④警察や消防との連携強化やAEDは誰もが使用できるようにする。 ⑤地元との連携の強化と災害時における障害物を撤去しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検が適切に行われ、危機管理意識の向上が図られたか。 ・正智ウェブの活用は適切か。 ・防災訓練は円滑に行われたか。 ・不審者対応マニュアルの共通理解はできたか。 ・自然災害等における緊急対応ができたか。 ・AED使用方法の研修、確認はできたか。 ・災害時の避難拠点としての役割を果たすことできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検は必ず行われた。 ・校内での施設事故は発生しなかった。 ・正智ウェブは、緊急を要する場合に幅広く使用することができた。 ・防災設備管理会社の指導のもと、防災訓練は順調に行われた。 ・大きな自然災害には直面しなかったが、施設・設備・備品等の点において地域拠点校としての役割は十分果たせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は安全な場所でない限りならぬ」という視点から、さらに改善をはかる。 ・AEDの使用方法に関する研修は急ぎ取り組むべき課題である。 ・iPad、正智ウェブとの関連を生かした有効な使用を検討する。 	